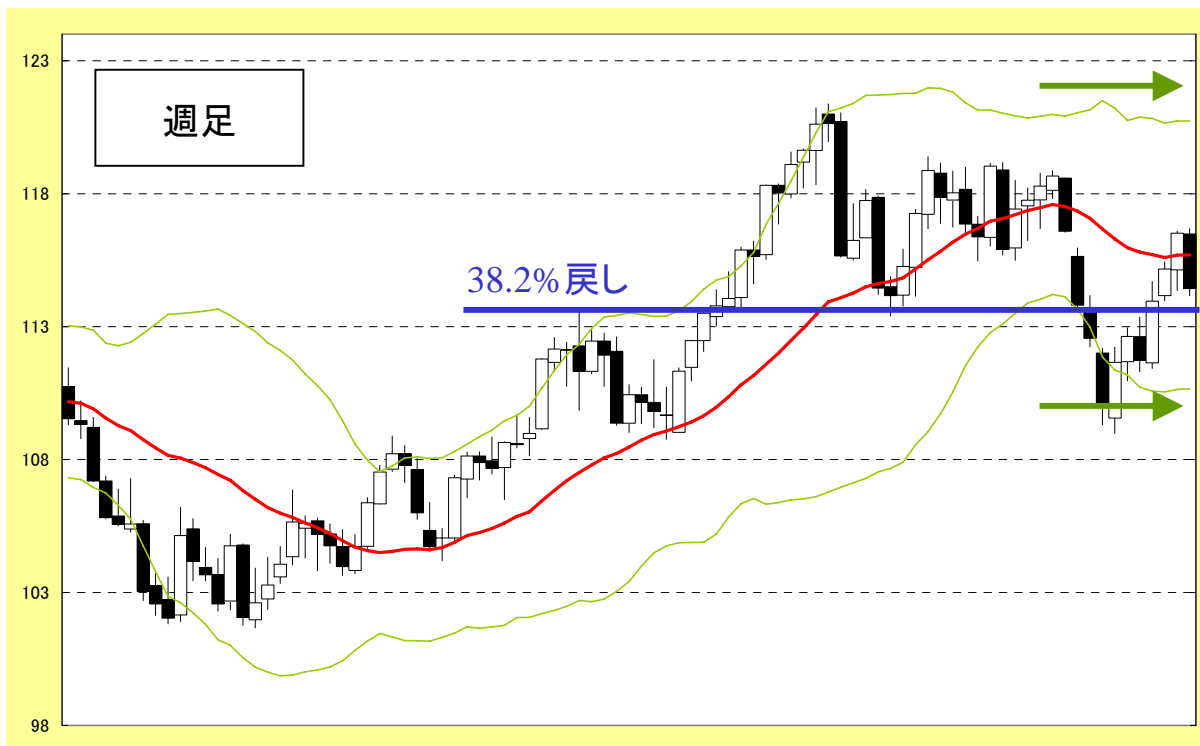


USD / JPY (7/2) 材料多く難しい局面、目先の下値余地は113円半ば



コメント

先週の値動き＝木曜日のFOMC後に急落。中期24週線も下抜けた。

今週の指標＝月曜日に日銀短観。金曜日には米雇用統計。ボラティリティーが高い相場が予想される。

テクニカル＝ボリンジャーの上下幅は横ばい。24週線をまたぐ値動きで、方向感に乏しい。

5月の108.98円、6月の116.68円を結んだ、フィボナッチ38.2%戻しは、113.74円。同水準には複数のテクニカル指標もあり、目先の下落余地は113円半ば程度と予測される。

円高予想が強い中も、材料が多い今週。安易な円買いには注意。

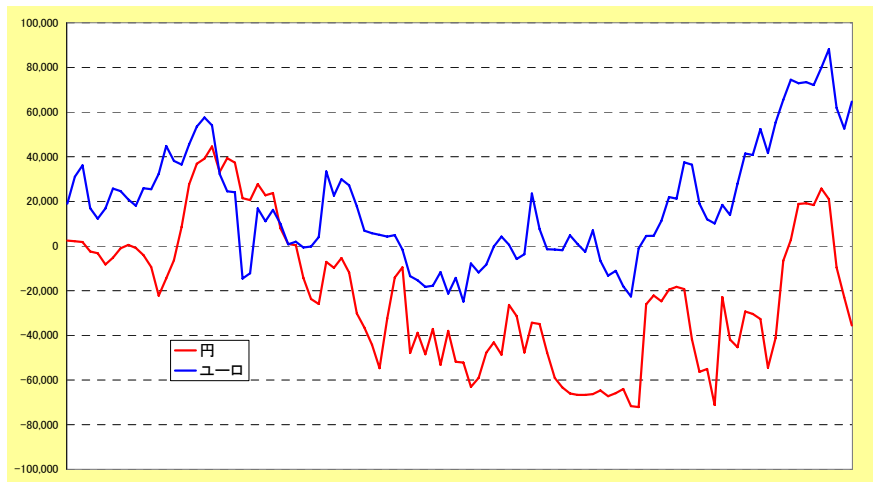
テクニカル・レート

+2σ =	= 120.73円	先週始値 =	116.49円
24週移動平均線	= 115.36円	先週高値 =	116.68円
38.2%戻し	= 113.74円	先週安値 =	114.16円
-2σ =	= 110.66円	先週終値 =	114.43円

今週の投資例

トレンド＝もみあい
現在値＝114.43円
難しい局面。すでにショート保有の方は、115円前半にストップをいれ様子見。新規の方は、月曜日の日銀短観後に投資判断か。

投機筋からユーロの底堅さ、金利は木曜日のECB政策金利に注目

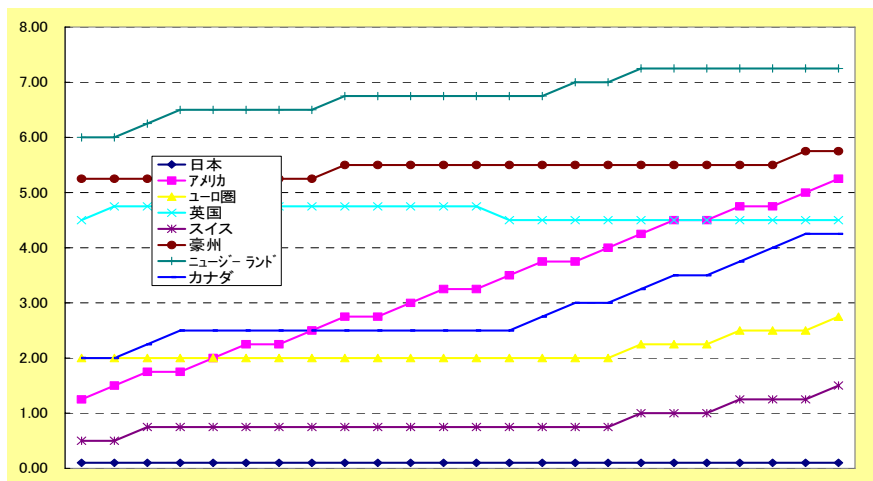


IMM投機筋ポジション動向

6月27日までの状況では、シカゴIMM投資筋の円の売り持ちは約▲3.6万枚。先週より約1.3万枚拡大した。27日の終値は116.35円。直近6月30日の終値は114.43円。再び縮小か。

一方、ユーロの買い越しは先週より約1.3万枚拡大し、約6.5万枚。27日が1.2569ドル。30日が1.2790ドル。一段と拡大か。

円、ユーロともに同じ方向で動くことが多かったものの、円は売り継続、ユーロは買い戻しとなった。この点からも、ユーロの買い地合いは底堅さが見られる。



各国金利動向

先週は注目のFOMC政策金利が発表された。事前には+50bp利上げの声も一部あったが、大方の予想とおりの+25bpの利上げとなった。ただ、声明文は事前予想よりもインフレ警戒的でなく、それがきっかけにドルは急落。金曜日ドル安は続き、116円後半から、114円半ばまで下落した。

今週は、各国で政策金利の発表が続く。水曜日に豪RBA、木曜日には、英BOEと欧ECBで政策金利が発表。いずれも据え置き予想となっているものの、ECBに関してはトリシェ総裁の会見を含め、注目が集まる。